

# 医学教育センターニュース

## 2010第2号

編集・発行 医学教育センター広報ワーキンググループ

September 2010

発行No.2010020800

本学医学部では、海外で医学教育を体験することにより、広い視野を持つ医師を育成することを目的として、米国南イリノイ大学医学部と学生交換を含む包括的な相互交流を行っています。今年度も、医学部学術国際交流委員会委員長から、学生派遣プログラムについてご説明いただくと共に、短期留学を経験した学生のコメントをご紹介します。

医学教育センター長 福沢嘉孝

## 南イリノイ大学との相互交流(SIUとの交換留学の制度)

医学部学術国際交流委員会委員長 渡辺秀人

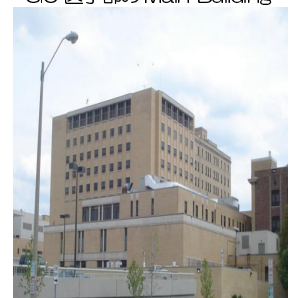
本学は短期間の学生派遣事業を含む包括的な相互交流を米国南イリノイ大学 (Southern Illinois University, SIU) 医学部と行っています。SIUはイリノイ州立総合大学として1869年に設立され、同医学部は本学とほぼ同時期の1970年に創設されました。同学部は地域医療に積極的に取り組んでおり、その充実した医学教育制度は米国内で高い評価を受けています。学業優秀かつ品行方正な学生を本学代表としてSIUに派遣し、本制度の尚一層の充実ならびにSIUとの深い交流を図っていきたくと考えています。

本派遣事業は以下の2つのプログラムからなっています。

SIU 医学部の Main Building

### SIU 2学年次カリキュラム受講コース

主に3、4学年次の学生が対象となり、春休みの約3週間を利用して、SIUの2学年次のカリキュラムを受講する制度です。SIUの専門課程2学年次生と共に問題解決型学習 (PBL)、チュートリアル、統合講義、臨床実技トレーニングなどを受講します。



### 臨床実習研修コース

5学年次の3月から6学年次の5月にかけて約2ヶ月間、SIUの4学年次の臨床実習選択コースに参加します。高度な英語力 (コミュニケーション能力) と臨床実習能力が要求されます。

## SIU交換留学「SIU 2学年次カリキュラムコース」体験談

自分の成長を実感できる充実の3週間

5学年次 宮田知里

私は、去年と今年の2度にわたって、春休みに南イリノイ大学 (SIU) に行ってきました。SIUで過ごした3週間、私がどのような経験をしてきたかを紹介したいと思います。セントレアから約15時間、スプリングフィールドという町に南イリノイ大学医学部 (SIU School of medicine) はあります。その隣にはMemorial Medical CenterとSt. John's Hospitalという2つの大きな附属病院があり、イリノイ州の中心的な医療センターとして利用されています。私たちはここの医学部の学生と一緒に講義を受け、PBLを行い、様々な交流をしてきました。どの講義でも必ず先生と生徒の間で質問が飛び交い、アメリカの医学生士の積極性を随所に感じました。中でも、約8人の小グループに分かれて症例について議論をするPBLでは、症状でrash (発疹) が見られる患者が来た場合に、患者に何を問診し、どこの身体所見をとり、何の検査を行い、挙げた鑑別診断の中からどのように確定診断をつけるかをシュミレーション形式で行います。日本の勉強では病名から症状を挙げていくのに対し、このPBLでは症状から病名を挙げていくため、より臨床に即しています。一見、ただ逆になっただけの



ようですが、実はこれが慣れないととても難しく、しかも英語でのディスカッションなので2倍にも3倍にも難しくなります。思い切って発言をすると必ずなぜそう考えたのかを質問されるため、浅い知識では対応できません。初めはスピードについていけず、答えられない悔しい思いを味わいましたが、その悔しさをやる気に変えて必死になって勉強し、少しずつ発言できた自分がありました。3週間後には自分でも成長しているのが分かり、とても達成感があったのを覚えています。 (後頁へ続く)

(前頁からの続き)

平日は一生懸命勉強し、週末にはみんなでシカゴ観光に行ったり SIU の学生と一緒に遊びに行ったり、本当に充実した3週間を送れ、書ききれないほど多くのことを体験しました。日本とアメリカの医療の違いを知るだけでも驚くことがたくさんありますし、SIU でレジデントをしている日本の医師とお会いするととても刺激になります。自分の成長を実感できる密度の濃いこの貴重な3週間をぜひ多くの人に経験してほしいと思います。



宮田さん(後列左側から5人目)自ら愛知医大生とSIU医学部生

## SIU交換留学「臨床実習コース」体験談

SIU で得た仲間、チャンスを与えてくれた大学に感謝!

6 学年次 加藤 泰輔

3/13 から 5/9 までの 2 か月間、南イリノイ大学医学部 (SIU) 附属病院へ留学し、Family medicine (2 週間)、新生児科 (4 週間)、そして麻酔科 (2 週間) で実習をさせていただきました。

私自身が小児医療に興味があることから 4 週間という長期間、NICU での実習をお願いさせていただきました。NICU (アメリカではお医者さんも学生もニキューと呼んでいます) は St. John's Children's Hospital という SIU の関連病院にあり、病床数は約 40 床と大きな施設です。

NICU での 1 日は朝 8 時からの症例検討会で始まります。毎回レジデントが交代で実際にあった症例をもとに主訴、現病歴から提示していきみんなでどんな検査が必要か、鑑別診断はなにか?などを議論し、最終的に診断を下すといったものです。アテンディングからの厳しい突っ込みも多く毎朝有意義な時間を過ごしました。

症例検討会の後は回診までに担当患者のカルテを書きます。夜間の状態を夜勤の看護師と話し合い、栄養、検査結果 (ビリルビンなど)、体重の増減などを記載し、患者の身体所見 (心音、原始反射など) をとり、最終的に自分自身で患者の Assessment と Plan を書き込みます。Plan が一番大変で、患者の栄養を経口から何をどれだけ? TPN (完全非経口栄養法) からどれだけ? 黄疸の治療方針は?などを自分なりに記載します。

回診はアテンディングとレジデントと看護師と私で行いました。回診中はアテンディングからの口頭試問の嵐です。カフェインを投与する理由は? 新生児黄疸の原因は? など。知らないことも多く、毎日が勉強でした。

自分の担当患者の時はアテンディングにプレゼンをします。そこで自分の Plan を発表し、アテンディングが修正を加えます。Plan が正しく、アテンディングにほめられた時はとてもうれしかったです。また担当患者の家族とのコミュニケーションも多く、日に日に状態が良くなっていくのを一緒に喜んだのも良い思い出です。午後からは毎回ひとつのテーマについてアテンディングと勉強をします。また自然分娩、帝王切開にも数多く立会い、新生児の蘇生を行いました。週に 1、2 回の当直もあり、アテンディングとカテーテルを挿入したり非常に良い経験でした。レジデントの 2 人とともに仲良くなり、最後の日にはプレゼントをもらいました。Family medicine では数多く患者さんの問診を行いアテンディングにプレゼンをしました。また、妊婦健診にも参加させていただき、母乳栄養が人工乳栄養よりも優れた点を妊婦さんに説明するといったこともありました。麻酔科ではなんと言っても日本の医学生は行うことのできない気管挿管を数多くさせていただいたことが一番の思い出です。様々な体型の患者さんがいて苦労することが多かったのですが、少しずつ慣れていくのを実感しました。実習以外では SIU の学生がとても親しみやすく一緒にご飯を食べに行ったり、ホームパーティーを開いてくれたりしたこともいい思い出です。



Kevin Dorsey SIU 医学部長(中央)



池田前委員長はじめ加藤君(前列一番右)ら愛知医大生とSIU教員、学生

同コースで 2 か月間をともに過ごした矢野繭さんは、自身も 4 週間の ER での実習などハードな毎日を過ごしていたにもかかわらず、どんなときでも全力で頑張っている姿を見て自分も頑張らなくては、と日々実感させられました。一緒に日本食を作ったり、いろいろな所に出かけたりとたくさんの思い出ができました。彼女の存在がなければこの 2 か月を乗り越えられなかったのではないかと思います。本当にありがとう!最後にこのような貴重な経験をさせていただいた愛知医科大学に感謝するとともに、この経験は将来臨床の場でも必ず生きていくものと思っています。

◇ SIU に派遣された学生諸君は「貴重な体験だった」と口々に語っており、彼等はその後大きな成長を遂げています。国際的視野、自ら学ぶ姿勢、深い洞察力を身につける絶好のチャンスです。ぜひ“チャレンジ”して下さい。